

令和7年度 広陵町子ども・子育て会議 議事要旨

日時:令和7年6月25日(水)午後1時30分～午後3時30分

場所:広陵町総合保健福祉会館 4階 中会議室

1. 会議次第

1. 開会

2. 教育長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 議事

(1)広陵町子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告書について

(2)その他

5. 閉会

2. 配布資料(事前送付分含む)

・会議次第

・広陵町子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告書

・広陵町子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告書〈要約版〉

3. 会議出席者

委員 16名のうち9名出席

事務局 10名

オブザーバー 1名

4. 議事要旨

1. 開会

事務局の進行により開会

2. 教育長あいさつ

〈教育長〉

「6月も後半になり近畿地方にも梅雨入り宣言されたが、暑い日が続いている。一番心配しているのがこどもたちの熱中症。みなさんも熱中症にならないよう配慮いただければと思う。広陵町のことになるが、12年にわたり町長を務めた現町長が6月30日で退任する。私は途中で教育委員会に来させていただき、現町長のさまざまな思いを感じながら、さまざまなことをさせていただいた。本当にこどもを第一に考えていただいていたように思う。広陵町は、子

育てが進んだ町だと言われているので、本当にありがたかった。

もう一点は 0 歳から 18 歳までが子どもだと考えたときに、その支援ができることをありがたく思っている。4 月からさわやかホール2階に移動し、子どもや子育てに関することを一貫して一緒にできることを本当にありがたく思っている。

本日は今年度2回目の本会議の開催であるが、ご多用の中出席いただき感謝申し上げます。

本日の議事は、「子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告」の要約版の検討について、議論をお願いする。また委員の皆様から意見をいただければと思う。

最後になるが、これからますます暑い日が続く、本日も35度近くが予想される。例年であれば6月ならまだ梅雨で気温が30度に達するかどうかであったが、今年の夏は昨年以上に暑くなると思われるため、健康に留意していただくようお願い申し上げます。」

3. 会長あいさつ

〈会長〉

「今月2回目のため、挨拶は短くしたいと思います。お手元に届いている報告書について、審議を進めてまいりたいと思うので、活発なご意見をお願い申し上げます。」

4. 議事

〈事務局〉 議事(1)について説明

配布資料に沿って、広陵町子どもの生活実態調査、子ども・若者の意識調査報告書について説明を行なった。

〈会長〉

「議事について、委員の皆さんにご質問やご意見をお聞きする。」

〈委員 A〉

「民生委員と主任児童委員をやっているが、地域に相談できる人がいないという話が出たと思う。民生委員は行政と困っている人たちを繋ぐことが仕事であり、もう少し力を入れたい。

今、小学校 6 年生に対し、年 1 回で民生委員会の PR 活動をしている。6 年生になった子に民生委員を知っているかと聞くと、半分より少し多い子は知っていると言う。しかし6年生で知るまでは民生委員を知らない人が多いこととなる。そのため、もう少し小さい子どもたちにも民生委員のことを知らせていきたいと感じた。」

〈委員 B〉

「自分の子どもがまだ小さく、どこに助けを求めたら分からないところがある。以前、隣に住んでいる方が近所付き合いや関わり方が分からないと仰っていた。自身も広陵町に転入しており、わからないことがあれば自分で調べたりすることがあるが、わかりにくいと思うことが多い。もう少しホームページをわかりやすくすることや、問い合わせたときにわかりやすい案内があれば良いと思った。」

〈委員 C〉

「息子が今年度から小学生になり、部団登校となったが、集合場所で待っている部団の子の元気がなく、あいさつがない。昔はおはようのあいさつだけでなく、昨日観たテレビのことを話したりしていたが、みんな沈んでいると感じた。このことについて、一度学校に相談させてもらったところ、親とこどもの付き合いが深い部団はあいさつが活発であり、反対にそうでない部団はほぼ半数以上があいさつを交わしていない。保護者の顔を見ても無反応のような感じであるという回答を学校からいただいた。学校では定期的に部団の登校指導は子どもたちにしているということと、すぐには指導結果が反映されないと思うので、見守っていただければありがたいとの回答だった。しばらくたってもあまり変化を感じられず、もう一度問い合わせさせていただいたところ、こどもの部団は家庭環境が整っていないくて不安定な子どもが多い部団であるとの回答があった。こどもは親が促してもあいさつをしなくなり、来年度新しく入ってくる子も同じようになってしまうのではないかと心配である。さまざまな家庭がある中、一人で解決するには難しいところがあるため、広陵町に何か対策を取っていただければと思う。」

〈委員 D〉

「家族へのお世話による生活への影響の設問について、家族へのお世話による生活への影響があるという回答が16件あったということについて、そのような家庭の子はいじめを受けている割合も多いということが表に出ていると思う。それに加え、お世話をすることがつらいなど、そのような回答がある子どもに関しては、たくさんある設問の中でも特に切実な悩みがはっきりと数字で出ているように感じた。そのような子どもが一部おられるということが分かった状況で、今後その子たちを支援していく体制を整えていくか、どう支援していくか気になった。」

〈委員 E〉

「悩んだり、困ったりしたときに相談できる人は誰かという項目で、私自身も小学生のときからかひのターゲットになったときがあったと思い出した。そのときに周りに大人はいたが頼れないと思ったことがあったことや、相談所みたいなところがあるのは知っていたが、電話する勇気が出ず、八方塞がりの状況になったときがあり、悩んでいた。そのときに先生が状況に気づいてくれて、初めてその悩みを打ち明けることができたことを思い出した。相談できる人はいるが、したくないのではなく、相談しにくい、勇気が出ないのであって、子どもからアクションを起こすということは難しいと思う。大人がアクションを起こしやすい、子どもが相談しやすいというより、大人が気づきやすい環境をつくれたら、もっと悩みを打ち明けられる子が増えるのではないかと感じた。」

〈委員 F〉

「普段の授業以外に1日あたり大体どのくらいの時間勉強しているかという項目に関連してのことであるが、本校でも問題になっているのが生活のリズムについてが別のアンケートでかなり顕著に出ている。項目としては、同じ時間に寝ているかどうか、1日に携帯やゲームに触れている時間はどのくらいなのか、スマートフォンなどの使用方法を家族の人と約束しているのかどうかという質問に対する回答が全国平均に比べて良くなく、この結果をどう伝え、保護者の方に考えていた

だくというところで、各家庭に伝えているところである。全体的な生活のリズムのようところが今のこどもたちの課題になっていると思う。」

〈委員 G〉

「このアンケート調査は小学生と中学生が対象であるが、幼稚園の子であれば、習字やそろばん、ピアノやスポーツなどの習い事をしているかという問いに対して、園児もほとんどの子が1週間毎日習い事に行っており、1日に2つの習い事に行っている子もいる。

居場所についての設問について、今幼稚園では、幼稚園が終わったあとに預かり保育を実施しているが、就労の都合でこどもを預けているだけでなく、保護者がリフレッシュのために利用している方がだんだんと増えてきている。こどもも、幼稚園で遊んでいるほうが家に帰るよりも良いという子も増えている。今年度の3歳児のこどもたちも、今は通常半日であるが、預かり保育を利用して1日利用していることも増えている。幼児期からそのような傾向が見られるのではないかとこのアンケートを通じて感じた。」

〈委員 H〉

「ヤングケアラーと想定される子が16人いるということが気になった。学童に勤めているが、さまざまな家庭環境のこどもがいる。ひとり親家庭の子もいれば、学童は土曜日午後7時まで開所しているが、開所時間いっぱいまで毎日1日も休まずにずっと来ている子もいる。家庭の事情もあると思うが、その子に居場所はあるのかと思って、大丈夫かどうか声かけや話はさせていただいている。

学童では多くのこどもが一緒に生活しているため、トラブルも発生する。トラブルがあったことを双方の保護者に説明すると、コミュニケーションをよく取られている保護者は「ごめんね」という感じで特に大事にはならないが、保護者同士あまり仲良くない場合や、コミュニケーションをあまり取らず、孤立している方も多くおられ、中には大事になってしまうこともある。「あの人は謝ってこない」というようになってしまう。そのため、親同士ももう少しコミュニケーションを取れるようにしたらいいいのではないかと考えたりしている。」

〈会長〉

「貴重な意見を出していただき感謝申し上げます。今回の調査で実際に数字として現れてきたこととして、先ほどヤングケアラーと想定される子が16件あるとの話があったが、それが全てではないと思う。その一部でも吸い取れたことは、調査の意義があったと思う。意見の中で挙がっていた、あいさつがないことについても昨今感じており、特にコロナ後にひどくなったと感じている。知らない人に声をかけられないようにという教育が進んでいることや、マスクで表情がわからないなど、悪い方向に進んでしまったと感じ、気になっている。

ほかに、昨日学生たちと授業でこどもの健康課題について話し合ったところであるが、スマートフォンやゲームで睡眠不足に陥っているこどもが多いということを学生も指摘していた。今は小学生でもスマートフォンを持っており、その管理が難しい。諸外国では禁止している国も出てきているが、このような問題もあると感じた。

学童にずっといるこどもの話になるが、園の方でもずっと預けっぱなしという子もいるということも別の園で聞いたことがある。

個人的に、視力が低下したのに眼鏡が買えなかったという項目を作っていたにありがたかったと思う。想定外の部分で学業に支障をきたすゆゆしき問題であると感じた。子育て支援でこどもを乗せる自転車の購入補助があったと思うが、このような主旨で、眼鏡もできないかと感じた。」

〈教育長〉

「一番気になったのが、ヤングケアラーと想定される16人という数で、この16人の中身が気になる。本来その子自身の家庭環境がどうなのか、アンケートだけではその背景は見えない部分がある。例えば、昔であれば兄弟が多くて下の子の世話をするのは当たり前という状況はあったが、今ではそのような状況も含めて何でもヤングケアラーに無理矢理定義づけしているように感じる。その中で本当に救ってあげなければならない家庭の子が本当にこの16人であるのか気になった。

もう一点は、アンケート回収率が90%を超えており、非常に高い回収率であるため、ほぼ生活実態を反映しているといえると思う。この結果をどのように子ども・子育て支援の政策にいかしていくかが一番大事な部分であると思うが、今聞かせていただいただけでも多くの課題があると感じられるので、その一つ一つを考えていくのは大変だという思いを今持った。

また、先ほど話があった、部団のこどもに元気がないということは、あってはならないことだと思っている。こどもは元気が一番大事だと思う。特に学校は楽しい場所でない絶対駄目だと思っているため、朝から意気消沈して下を向いて登校してくるということは、こどもにとって一番かわいそうな環境だと思う。いつもあいさつが大事だと言っているが、学校がどれだけあいさつしなさいと言っても効果は見込めない。家庭や地域での働きかけが大事だと思う。家庭内でするあいさつが知らないうちに定着化して、習慣化していくと思う。難しいとは思いますが、行政として家庭に対して子育ての指導をしていくことも必要ではないかと感じた。

アンケート結果はこのように出たが、さらに細かい実態について、どうしていくべきか行政として考えていかなければならない。本会議委員の方々のさまざまな意見を聞きながら、こども計画や子育て支援につなげていかなければならないと思った。」

〈会長〉

「これまでの意見について、事務局から回答をお願いします。」

〈事務局〉

「みなさんがおっしゃったとおり、地域が関わっていくことも大切であり、それで地域ができあがることによりあいさつが活発に交わるようになってきたことや、支援ができるようになることは、第3期子ども・子育て支援事業計画の基本理念である「ともにこどもの未来を応援する地域づくり」に繋がっていくのではないかと感じている。こども計画は、第3期子ども・子育て支援事業計画、こどもの貧困対策計画、こども・若者計画、また次世代育成支援対策推進法に規定する行動計画を統合したものとして策定予定である。計画策定にあたり、アンケートだけでなく、委員さんの貴重な意見もいただけたと思う。

今後、こども計画を策定するにあたり、一番課題となっていることは、ヤングケアラーの話だと思う。ヤングケアラーについてはおっしゃるとおり、背景を確認しなければならない事情がある家庭もある。きょうだいや家族のお世話を少し手伝って、それにより自分の時間がなくなったと思えばヤングケアラーに認識されることもある。

行政ができるサービスは多数あるが、それがその子の必要な支援に合致しているかどうか、その制度を知っているかどうかや、限りもある。このこと踏まえて今後のこども計画を考えていかなければならない。現在の制度では全てのケースに対応できる状況ではないため、その課題は今後の計画の中に含めていき、行政ができること、地域ができること、家庭ができること、学校ができることを踏まえて進めていきたいと思う。

こどもから発信するのではなく、大人が気づきやすい環境が必要ではないかという意見について、計画を作る中では、こどもから発信できるような周知方法など、発信の方法にフォーカスを当てがちだった。貴重な意見をいただいたと思う。今後、対策を考える際の一つにできるのではないかと思う。」

〈事務局〉

「アンケートの結果から、ヤングケアラーと想定されるこどもたちがいるということから、このことについては見過ごせない部分であると思う。学校と協力して、解決に結びつけていきたいと思う。」

〈事務局〉議事(2)について説明

7月26日(土)と8月2日(土)の2日間でワークショップを開催する。申込み期限は7月11日(金)としているため、家族や知り合いの方にも良ければ周知願いたい。

〈会長〉

「現在の申込み者数はどれくらいか。」

→〈事務局〉

「小学4年生が3名、5年生が1名、6年生が2名、中学1年生が2名、2年生が3名、大学生が1名、大和広陵高校から4名が参加いただいている状況。まだ人数が少ない状況のため、改めての周知を行ない、場合によっては児童生徒に参加推奨をお願いしたいと思う。当日は現在よりも多い人数でワークショップを開催したいと思う。」

〈教育長〉

「3年ほど前に県で中学生を対象にヤングケアラーの調査があった。その際にヤングケアラーに該当する子が数名おり、実際の状況を確認してもらった。このように、アンケートの結果だけでなく、背景も大事だと思っており、何かフィードバックが必要ではないかと思う。

今はこどもたちが先生や大人に悩みを打ち明けるのは難しいと思う。このことについて、Chromebook の活用など考えていきたい。こどもの意見をできるだけ反映していくことが持続可能な社会に繋がっていくと思う。」

〈会長〉

「議事を終了する。」

5. 閉会

(以下余白)